

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300367		
法人名	有限会社 浜本		
事業所名	グループホーム ひがしもこと		
所在地	〒099-3214 網走郡大空町東藻琴538番地4		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的なやすらぎのある環境の中で地域と関わりを持ち尊厳を持ってその人らしく元気に暮らすことができるようお手伝いさせていただきます。」

- ・ゆっくり
- ・楽しく笑顔で
- ・出来るだけ自分で

の理念に基づき、入居者様が安心して地域で暮らせるよう支援させていただいております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175300367&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年3月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は住宅街に立地しているが、広い敷地を有している。敷地内に野菜栽培用のビニールハウスを設置し、野菜や花畑づくりを行い、利用者の楽しみにつなげている。職員で話し合い地域密着の意義を盛り込んだ独自の理念を作成し、日々のケアサービスの根幹として共有している。管理者は、理念に沿った利用者本位のサービス実現のため、職員と信頼関係を築きながら、内部研修を充実させるなど、職員教育に努めている。地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、地元の高校生の職場体験の受け入れなど地域交流に取り組み、開かれた事業所を目指すと共に、町内唯一のグループホームとして地域の介護相談窓口となれるよう、運営推進会議を活用し地域貢献に取り組むことを検討している。事業所内は回廊式のゆったりとした造りとなっており、広い廊下を利用者のリハビリに利用し、居間にはウッドデッキ、和室を設け、明るく家庭的な雰囲気となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、玄関・事務所・談話室に掲示し、常に職員全員が意識・共有しケアの基本としている。	職員間で検討し、地域密着の意義を盛り込んだ独自の理念を作成し、日々のケアサービスの基本として共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアの方の訪問・地域との行事交流や散歩の際の挨拶・声かけ等、地域の方々との日常的な交流を大切にしている。	地域の行事に利用者に参加したり、町の展覧会に利用者の作品を出展している。また、数多くのボランティアや地元高校生の職場体験を受け入れる等、地域に開かれた事業所を目指し取り組んでいる。今後、地域の介護相談窓口として貢献することを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校生の職場体験実習の受け入れや運営推進会議等で、町内の認知症の相談窓口になる事等、地域に役立てるように考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでのサービス状況、取り組み状況を報告し、地域の方々から意見を出してもらいサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は、概ね2ヶ月毎に利用者家族、地域住民、地域包括支援センター職員、商工会婦人部、社会福祉協議会職員、民生委員、東藻琴会館管理者等、多彩なメンバーが参加し、開催している。会議では、事業所の状況や行事の報告を行い、災害対策等について検討し、サービスの質の向上につなげている。	家族の参加が限られた状況となっている。議事録の送付等を通して家族と情報の共有に努め、家族の参加が得られる工夫に努めることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取ったり、運営推進会議や月に一度のケア会議等にて報告・相談をして指導や助言をいただいている。	月に一度の地域ケア会議に出席すると共に、運営推進会議に町の職員の出席を得ており、情報交換や相談をする等連携を深め、サービスに反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・ミーティング等で身体拘束をしないケアの実践を確認しています。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行なっている。	年に一度、内部研修を実施し、身体拘束の理解と周知に努めている。医師の指示で拘束が必要な利用者には家族と同意書を交わし、利用者の行動パターンの把握等に努め、改善の方向に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯のため夜間のみとなっている。	月に一度ミーティング時に内部研修を実施し、管理者は外部研修の情報を提供しているが、職員の外部研修への参加が少ない状況になっている。職員の視野を広げスキルアップにつなげるためにも、職員の外部研修参加の機会を確保することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会を実施し、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者様の1名が利用しており、内容や制度についてミーティング等で職員に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、入居者様やご家族様の不安や疑問が残らないようにし、理解・納得していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様とコミュニケーションを図ることで、意見や要望・不満等を聞かさせていただいている。出された意見についてはミーティング等で話し合い運営に反映させている。	家族の意見表出のため意見箱を設置している。管理者、職員は、家族の来訪時や電話での報告時に意見や要望を聞き取るように努め、信頼関係を構築している。寄せられた意見や要望は、ミーティングで検討し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見や提案を聴くように心がけており、代表者・管理者は反映できるよう努めている。	管理者は、ミーティング時や日常の中での職員の意見や要望に耳を傾け、代表者につなげている。困難事例の利用者が利用開始する際には入所会議を開催して情報を共有し、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、職務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアレベルアップの為、内外の研修に積極的に参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を始めとして同業者との交流が有り、特に地元の同業者とは勉強会を開催したりと積極的にやり取りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で事前に聞き取り調査を行い、本人の希望に添ったお手伝い出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも聞き取り調査を行い、本人と家族とを交えて相談しながらサービス内容を検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用開始する段階で、生活への支障や介護負担軽減等から緊急性を見極め、本人と家族が「その時」必要としている支援や他のサービスの利用などについてアドバイスさせていただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には出来る事を行なっていただき本人の必要性等を感じていただいております。職員も利用者様に感謝の気持ちを持って接することで互いの関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に報告や相談をおこない入居者様の情報を共有しながら、一緒にご本人を支援していけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の受け入れや馴染みの理・美容院、かかりつけ医への受診支援等、利用者の馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	利用開始前からの知人や友人の訪問の受け入れや、行きつけの美容院への支援等、馴染みの関係の継続に努めている。町内の寺院の住職が訪問し、利用者とはふれ合う機会を持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様を理解しよりよい人間関係を築けるよう食堂の席の場所の交換や利用者同士がゆっくりと話が出来る場所を提供し支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居等によってサービスが終了しても、お見舞いや面会などで関係性を保つよう心がけ必要時の相談や支援に応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の出来事や支援の中で利用者様本人の様子や言動などを記録し、多くの情報を集約し、本人本位の意向の把握に努めている。	これまでの生活歴の把握や、日々の関わり、家族からの情報等を参考に、意向の把握に努めている。入浴、排泄介助時も利用者の意向に沿った対応を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や必要時にご家族や地域の方々から情報をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の表情や体温・血圧・食事摂取量・排泄状況・睡眠時間等様々な情報を基に心身の状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・家族様・職員・医療者と話し合い、それぞれの意見を確認しながらモニタリングを実施し、ケアプラン作成に努めている。	毎月のミーティング時や状況に応じて、カンファレンス、モニタリングを行い、日々の状況を把握し、家族の来訪時に利用者を交えたサービス担当者会議を開催して、希望や要望を反映した介護計画を作成している。プランは申し送りノートに書き込み、情報の共有に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々関わったスタッフが経過記録・申し送りに記入し、情報を共有し、その情報を基にケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の希望・状況等に応じ出来る限り柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加し、充実した生活日々を過ごしていただけるよう支援させていただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調等に変化があった時には、その状態や経過について利用者様・ご家族に伝え、受診の希望や必要性があると判断した時には、適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医にも報告・相談などを実施している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医及び訪問看護ステーション等の医療機関と連携し、情報の共有を図っている。また、看護職員が日々の利用者の健康状態を把握し、健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを、経過記録や申し送りを通して、看護・介護職員が情報を共有し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と連携をとりながら利用者様の状況を把握し早期に退院できるよう医師等にも相談している。退院してからもどのように支援したら良いかを相談しその後の支援を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族や利用者様にターミナルケアの説明は行なっているが、病院との協力体制が不十分であり、現状ではターミナルケアを行なえる体制が整っているとは言い難い。	重度化、終末期に向けた方針について、利用開始時に家族に説明している。重度化した場合は、その都度かかりつけ医、家族と相談し、病院等希望に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや救急救命の講習会を毎年度実施し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。去年から近隣住民にも参加していただいている。	消防署の協力の下、年2回の総合訓練を近隣住民と共に実施し、加えて別の日に夜間を想定した避難訓練を実施している。自動通報設備に近隣住民から登録の同意を得るなど、協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は「人生の大先輩である」という認識をもって、プライドを傷つず、誇りやプライバシーを尊重し対応している。	職員は利用者信頼関係を築きながら、常に利用者の尊厳に配慮した言葉遣いや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が訴えてきたときはもちろんのこと、訴えることが出来ない方等でも適切な声かけを行い本人の希望を引き出せるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況によっては職員側の都合が優先される場合もあるが、出来る限り一人一人の希望に添って支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みなどの把握に努め、ご本人の自己決定を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の要望や好み・身体状況に応じた食事形態で栄養バランスに配慮した献立を作成し、一緒に調理の下準備や後片付け等に取り組んでいる。	管理者が栄養士に相談しながら大まかなメニューを週単位で定め、利用者の嗜好や身体状況に配慮した食事を提供している。利用者は職員と一緒に下準備や片付けを行うことで、張り合いや自信につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の身体状況に応じて必要量が摂取できるように日々の経過記録に記入し健康・栄養管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、声かけや介助にて口腔ケアが実施できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、排泄パターンを把握し適時適切な声かけや介助が出来るよう支援させていただいている。	職員は利用者の排泄表、管理記録、申し送り等を通して排泄パターンを把握する中で、利用者の状況や体調に応じ、自立に向けた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な運動や入浴・マッサージを実施したり水分や食物繊維・牛乳・ヨーグルト等を提供させていただき便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、入居者様から希望はほぼ無く、入りたがらない方が多数の為にあらかじめホームにて予定を組まさせていただいている。声かけし入浴したくない時は翌日等に調整している。希望が合った時は柔軟に対応している。	週2回以上、利用者の体調や希望に沿って入浴できるように取り組んでいる。入浴が難しい場合は利用者の状況に合わせ、タイミングを図りながらの声かけや清拭等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズム・体調に合わせた睡眠・安息に関わる支援を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員は全利用者様の薬の効能・副作用について理解しており、薬の変更時には職員へ周知させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や楽しみごとを本人やご家族、地域の方々等から聞き取り、一人一人が充実した一日を送っていただけるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など、利用者様の希望に応じて散歩やドライブ、日光浴を実施している。また季節に応じて、お祭りに行ったり紅葉やお花を見に行ったりしている。ご家族の方々にも協力していただき利用者様が外出出来るよう支援させていただいている。	日常的な散歩や買い物等に限らず、利用者の希望する外出支援を行い、その人らしい暮らしにつなげている。近隣の公園やチーズ工場に出かけるなど、積極的に外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名の方が、小額の現金を自己管理されている。他の方はホームで預かり、ご家族・本人様と相談しながら必要時や希望時には、ご本人の希望や持っている力に配慮しながら使えるよう支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知り合いの方に手紙を出したり、電話するなどしてご家族様、利用者様が安心して生活できる環境作りを実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ季節感を感じていただけるような飾り付けを行い四季を感じていただいております。湿度・温度等に注意し、加湿器を使用したり空気の入替えを行ない、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	事業所内は広々とした造りと成っており、日当たりの良い居間にはウッドデッキを設置し、日光浴など利用者の気晴らしのスペースとして利用している。居心地に配慮したテーブルやソファの配置や、季節感を感じさせる飾り付けを行い、第二の我が家として家庭的な雰囲気大切にしている。温度や湿度にも注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は一人で過ごしたい時には居室で、皆で過ごしたい時は食堂で、職員と居たいときは談話室や事務所と、利用者様それぞれ、好みの場所で過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様の馴染みの物をお願いし持参していただいている。利用者様に会った道具や家具を提案し使い勝手や安全面に配慮させていただいている。	全ての居室にクローゼットを設置し、利便性に配慮している。利用者はタンス、テレビ、ベッド等使い慣れた馴染みの物を持ち込み、安心してその人らしく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内には手すりが設置されており、全面フラットのバリアフリーになっている。		